

抗議文

米原子力潜水艦サンフランシスコの横須賀基地入港に強く抗議する。横須賀基地は原子力潜水艦の母港ではない。原子力潜水艦サンフランシスコはただちに出て行くこと。

米海軍第7艦隊司令官 スコット・スウィフト中将 殿
在日米海軍司令官 ダン・クロイド少将 殿
米海軍横須賀基地司令官 デービッド・オーエン大佐 殿

2013年1月5日

原水爆禁止神奈川県協議会
神奈川県労働組合総連合
新日本婦人の会神奈川県本部
神奈川県商工団体連合会
神奈川県平和委員会
安保廃棄神奈川県統一促進会議
原子力空母の母港化を阻止する三浦半島連絡会

1月2日午前9時45分、ロサンゼルス級攻撃型原子力潜水艦サンフランシスコが横須賀基地に入港した。原子力潜水艦の入港は今年1回目、原子力艦船の入港も1回目で、通算867回となった。現在、原子力空母ジョージワシントンが横須賀に滞在し「定期修理」を実施しており、横須賀基地には、原子炉3基が存在する異常な事態となっている。

原子力潜水艦サンフランシスコは、太平洋に配備された約25隻の攻撃型原潜のうち、核攻撃の資格を与えられた10隻の「核認証艦」の1隻である。この原潜サンフランシスコは、2005年1月8日にグアム島南方を高速で潜行航行中に海底の山に激突する大事故を起こしている。この事故は、乗組員137人のうち死者1名、重傷23名を含む98人の負傷者を出す大事故だった。

このような危険で核持ち込みの疑惑のある原子力潜水艦サンフランシスコの横須賀入港に断固抗議し、ただちに出て行くことを強く要求する。

昨年も、18回に及ぶ原子力艦船の入港があり、滞港日数は延べ298日に及んでいる。このように原子力艦船の入出港が頻繁におこなわれ、かつ長期にわたって滞港することは、神奈川県民や首都圏住民を、原子力艦船の事故の危険にさらし、東アジアの軍事的緊張を強めるものとして、我々は強い不安を抱いている。

首都圏や横須賀基地を含む三浦半島で超巨大地震の発生確率が高まっている今日、超巨大地震による原子力艦船の原子炉事故に強い不安を抱いている。我々はこれまで、再三にわたって巨大地震による原子力艦船の事故の可能性や影響、対策について検証し情報を公開することを要求してきたが、米軍は、「安全だ」「事故は起こらない」という原子力艦船の「安全神話」を押しつけ、詳細な情報の開示を拒否する態度に終始している。このような態度は断じて許されない。改めて巨大地震による原子力艦船の原子炉事故の可能性や影響、対策について明らかにすることを強く要求する。

米原潜には、核兵器搭載の可能性も否定できず、「核持ち込み」の問題も重大である。核密約によって核が横須賀に持ち込まれていたことは、すでに明らかになっている。核は積んでいないことを証明すると同時に、核密約はただちに破棄することを要求する。

「戦争はしない」と決めた憲法9条を持つ日本に、戦争のための軍艦が入出港を繰り返している。これは、米軍が東アジアでの軍事行動を強化していることを意味し、アジア・太平洋の平和と安全にとって害悪をもたらすものである。米軍艦船による東アジア・太平洋での軍事演習は、ただちにやめることを要求する。

横須賀基地は原子力艦船の母港でない。原子力潜水艦サンフランシスコは、ただちに横須賀から出て行くこと。原子力空母GWの「定期修理」はただちに中止すること。原子力艦船の横須賀母港化をやめること。以上を強く要求する。

以上